

平成 29 年度 事業計画書

(平成 29 年 3 月 1 日から平成 30 年 2 月 28 日まで)

<平成 29 年度の活動指針>

- ① 公益社団法人日本油化学会の定款の下で活動を行う。また、将来構想委員会の提言に基づき、持続可能で活発な日本油化学会への脱皮を目指し、実践的な活動を推進する。
- ② 学術面では、まず、第 56 回年会(酒井秀樹実行委員長)と第2回アジアオレオサイエンス会議(ACOS2017、河合武司実行委員長)とを 9 月 11 日(月)～13 日(水)に東京理科大学神楽坂キャンパス(東京都・新宿区)で合同開催し、新しい年会の形を模索する。その他、専門部会、支部によるセミナー・シンポジウム・講演会等を開催する。これら事業の実施にあたっては、学術面で得られた成果を効果的に産業界に発信する一方で、産業界から油化学に求められているニーズを的確に汲み取ることを念頭におく。また、アジアなどを中心に、学術面での本会の国際的な発信力強化に取り組む。
- ③ 教育面では、フレッシュマンセミナー、アドバンスセミナー、試験法セミナーなどの本部企画セミナーの見直しを行い、より魅力的な内容に刷新するとともに、専門部会、若手の会、各支部活動などにおいて、特に、若手会員の能力向上と会員増強に力を傾注する。さらに、年会における若手研究者の表彰などを通じて、学生や若手研究者の育成を図る。
- ④ 学術誌:学術論文誌「JOS」は国際社会に貢献する、より知名度の高い国際誌を目指す。
会員誌「オレオサイエンス」は、会員に役立つ情報誌づくりに努力すると共に、HP(ホームページ)をリニューアルし、会員はもちろん、国内外への敏速な情報発信に努める。
- ⑤ 社会貢献の一環として、一般財団法人油脂工業会館との共催で実施している市民講座(地区講演会)は、本年度も 3 支部が中心となり全国の地方都市で開催する。

1. 会務

1.1 総会

第 63 回定時総会を平成 29 年 4 月 24 日(月)油脂工業会館において、代議員を社員として開催する。平成 28 年度事業報告(報告事項)、平成 28 年度決算案などについて審議し、平成 29 年度の役員を選任を行う(理事・監事全員が改選となる)。定時総会終了後、総会報告会を開催し、定時総会および新執行体制について報告する。さらに日本油化学会フェローの推戴を行うとともに、平成 28 年度日本油化学会の学会賞、功績賞および女性科学者奨励賞の各賞の選考結果報告と表彰等を行う。その後、講演会ならびに懇親会を開催する。

1.2 理事会

平成 29 年度の理事会の開催予定は 5 回。平成 28 年度収支決算案および平成 30 年度の事業計画の立案と収支予算案の策定、平成 29 年度諸事業計画の企画・実行、諸規則類の整備・改定等、重要案件について審議し決定する。

1.3 運営委員会

運営委員会の開催予定 6 回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の持続的な財務基盤の構築および活動の活発化につながる議論を進める。

1.4 業務委員会およびその他委員会

本会の業務を担当する総務、財務、国際交流、オレオサイエンス編集、JOS 編集の各委員会は、それぞれ公益社団法人としての内部体制と諸規則類の整備ならびにホームページの更新、収支バランスを踏まえた学会活動の財務的支援、海外の学術団体および工業会などとの共同活動推進、アジア中東地域での No. 1 学術誌を目指した国

際情報発信の強化を継続して進める。また、企画・部会統括委員会は本部・支部・各専門部会が企画する講演会やセミナー等の事業の円滑な実施に向け、事業の内容やスケジュールの調整ならびに相互情報交換を進める。

2 事業計画

2.1 研究成果の公開，人材教育，研究の奨励及び業績の表彰を行う事業（公1）

2.1.1 研究成果の公開

(1) 日本油化学会年会等の開催

平成29年度第56回年会は、酒井秀樹実行委員長（東京理科大学）のもと、東京理科大学神楽坂校舎（東京都・新宿区）において9月11日（月）～13日（水）に、河合武司実行委員長（東京理科大学）の第2回アジアオレオサイエンス会議と合同で開催する。アジア各国および日本からの招待講演，受賞講演，一般発表（口頭およびポスター）を行うとともに、専門部会主催のシンポジウム等を行う。なお、各講演および発表は英語を主体として実施する。

(2) 論文誌・会員誌の発行

JOS編集委員会は、論文誌「Journal of Oleo Science」を12号発行する。オープンアクセスの維持，早期公開の継続，関連研究者への働きかけ等を通して、会員ならびに国内外研究者からの「JOS」への積極的な投稿を募る。また、オンライン投稿審査システムを基盤に、外国人査読者も増やし、国際的な投稿審査体制の一層の充実を目指す。アジア～中東地区でのNo.1学術誌の地位を確立することを目標に、Impact Factorの向上に努める。そのための方策として、引続きReview論文や特集企画を増やしていく。剽窃チェックシステムや英文校閲を活用し、本誌の品格維持／向上に努める。さらに、学会、セミナー等で、本誌を展示／広報する機会を増やす。さらに、英語論文書き方セミナー等により、若手研究者の英語力強化を図る。目指すところは「国際情報発信強化」である。

会員誌「オレオサイエンス」を12号発行する。オレオサイエンス編集委員会は、総説約40件からなる特集企画、若手研究者紹介、抄録、会務記事など有益情報の早期発信を推進するとともに、学術専門委員会との共同企画（Topics in Oleo Science）の開始、会員が参画する紙面の充実など、さらに有用かつ魅力ある会誌づくりに努める。なお、デジタルアーカイブのweb公開／環境整備を継続する。

2.1.2 人材教育

第18回フレッシュマンセミナーは、5月に「油脂と脂質」、6月に「界面科学と界面活性剤」をそれぞれ開催し、日本油化学会が編纂・出版した教本の普及に努めるとともに若手研究者の人材育成を図る。フレッシュマンセミナーを受講し基礎を身に付けた方々の次のステップとして、より実践的なセミナーを新たに企画する。新セミナーは「界面」（7月予定）、「油脂」（7月又は8月予定）についてそれぞれ開催し、企業中堅研究者の人材育成を図る。若手の会については、前年同様「2017年若手の会サマースクール」を8月に開催し、若手研究者・技術者の活発な交流をはかる。

上記のフレッシュマンセミナー等の本部事業は年4回の企画・部会統括委員会の開催により企画、運営を行う。また、次項以降の事業は各支部、専門部会において、それぞれのリーダーのもと、独自に運営を行うが、企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議でスケジュール調整、相互の情報交換などを行う。

2.1.3 研究の奨励・業績の表彰

油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰する。若手の研究者を奨励するため、日本油化学会進歩賞、ヤングフェロー賞、学生奨励賞を授与する。また研究成果を表彰するため、日本油化学会学会賞、工業技術賞、エディター賞、オレオサイエンス賞、インパクト賞、ベストオーサー賞を授与する。また本会に貢献した会員の表彰も行う。

2.2 評価・試験法の標準化と普及を行う事業（公2）

油脂および油脂製品の研究や品質管理等における油脂の品質を評価するための基準となる分析試験法（公的試験法）として刊行した『基準油脂分析試験法 2013 年版』について、従来の試験法の見直し作業の実施、新規の試験法の探索、新規の試験法の策定を行うとともに、英文版基準油脂分析試験法について必要な見直しと増補のための作業を進め、増補・改訂版を年度末に刊行する。また、学生や研究者、工場技術者向けの界面活性剤の基準書として利用できる、『界面活性剤評価・試験法』改訂第 2 版の普及を図るとともに、必要な見直しを行う。品質管理や研究開発を担う技術系職員および学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、11 月に第 17 回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法の標準化と普及を図る。

2.3 地域における学術の振興と普及を行う事業（公 3）

各支部による講演会・セミナー等は、例年にならない開催する。また支部活動の一環である（一財）油脂工業会館共催の地区講演会・セミナーを、関東支部は 10 月に盛岡市で、東海支部は 11 月に長野市で、関西支部は 6 月に大分市、11 月に東広島市で、それぞれ開催する予定である。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を積極的に行い、地域における学術振興・普及に努める。

2.4 学術専門分野の活性化事業（公 4）

専門部会活動については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、ライフサイエンス・産業技術部会、オレオナノサイエンス部会、食品油脂機能構造部会およびマスターズクラブの 6 部会・1 クラブ体制で展開する。日本油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性、さらにグローバル視点も意識しながら学術専門分野の活性化・強化に努める。各専門部会は部会長の指導のもと、専門性の追究と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー・講習会等の充実と定着化を図る。マスターズクラブは学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開する。

以 上

(413 回 理事会決議)